

# 本会記事

## 第 106 回 日本放射線化学会 理事会議事録

日時 平成 29 年 3 月 16 日 (木) 17:30–20:00  
場所 早稲田大学・西早稲田キャンパス (旧理工キャンパス) 55 号館 S 棟 4 階 10 号会議室  
出席者 小嶋拓治 (量研・高崎), 鶯尾方一 (早大・理工研), 平出哲也 (原子力機構), 吉田陽一 (阪大), 真嶋哲朗 (阪大), 伊藤賢志 (産総研), 前川康成 (量研・高崎), 中川清子 (都立産技研), 菊間博之 (極東産業), 田口光正 (量研・高崎), 岡壽崇 (東北大高教機構), 山路稔 (群大院理工), 熊谷純 (名大), 堀邊英夫 (大阪市大), 勝村庸介 (アイソトープ協会), (オブザーバー) 近藤孝文 (阪大)

### 議題

1. 前回 (第 105 回理事会) 議事録 (案) (事務局 吉田)  
第 105 回理事会の議事録が確認された.
2. 平成 28 年度役員名簿 (事務局 吉田)
  - 名誉会員に変更があった.
3. 平成 28 年度賛助会員名簿 (事務局 吉田)
  - 現在 17 会員.
  - 原子力機構の組織再編と量研の発足に伴い, 現賛助会員は量研が引き継いだ. 原子力機構にも賛助会員をお願いするよう働きかけることとした.
4. 入退会一覧 (事務局 吉田)
  - 入退会者一覧について確認した. 入会 10 件 (正会員 4, 学生会員 4, 賛助会員 2) が承認され, 退会 4 件 (正会員 4 件) が報告された. 今村先生ご逝去も報告された.
  - 理事会資料に記載されている「仮会員」について質問があった (伊藤理事). 入会申込書受理後, 初回会費を振込むまでの人々が仮会員と呼称されていた経緯があるが, 規約上では, その呼称は使われていないので, 今

後, 使用しないこととした旨, 説明された (事務局 吉田). また, 退会については, 会費滞納をチェックすることが確認された.

- 退会者には, 終身会員の制度を周知するよう要請があり, 今後は退会希望者全員に案内することが確認された.

### 5. 編集委員会報告 (平出委員長)

- 103 号 4 月末発行見込み. 巻頭言は, 関先生, 志田先生, 今村先生の追悼記事は次号に掲載予定. 本号では, 訃報の掲載を検討する.
- 104 号, 105 号は 4 月下旬の編集委員会で検討する.
- 編集委員を 1~2 名増員を検討中. また, 一人にかかる負担を軽減し, 多くの専門分野の領域をカバーできるように, 任期を延長 (2 年 → 4 年) する予定である.
- 学会誌への投稿に関して, 他の論文記事等の転載がある場合は, 著作権に関する許諾を必ず取るようにする. 今後, 編集委員が投稿者にチェックを入れる.
- 討論会要旨集の電子化は, すでに 40 周年の時に一度まとめている. それ以降については, 現在まとめる作業が進んでいる.

### 6. 國際交流委員会報告 (鶯尾委員長)

- ACRR2017@カザフスタンの Section 7 で, 放射線化学会がプレナリー・セッションを企画する方向で進めたい. プレナリー・トークは阪大・吉田先生にお願いする事が承認された.
- ACRR2017 への若手参加の援助をお願いしたい旨が報告され, 承認された. ただし支援額は, 学会運営を圧迫しない範囲内で, 会長, 事務局と相談の上決定することとした.

## 本会記事

### 7. 企画委員会報告（事務局 吉田（越水委員長欠席のため））

- 2月28日にESRをテーマとした先端放射線化学シンポジウム（SARAC）と阪大産研量子ビーム科学研究施設報告会が連日で実施された（事務局吉田、小嶋会長）。
- 各参加者が相互に乗り入れて参加者の増員（相乗効果）を期待したが、予想以上の効果が見られなかった。外部・会員へのアナウンスが遅れた点や、別の会議や修論・卒論等の行事とのバッティングがあったことが原因である。しかしながら、共催で企画することにより、参加者が所属組織への許可がとりやすくなることの意見もあり、今後、日時の設定やアナウンス等、改善を図ることとした（小嶋会長、真嶋理事、熊谷理事、平出理事、堀邊理事）。

### 8. 第60回放射線化学討論会準備状況報告（伊藤理事）

- 開催日が9月27日-29日の3日間に決定した。特集セッションとして、つくばエリアのPJからトピックスを募って発表してもらうことを考えている。招待・特別講演については、座長を中堅若手に依頼し、各座長がセッションの企画も担当することも考えている。
- 次回開催 金沢大学は難しい見込み（事務局吉田）。大阪市大が開催可能か検討する（堀邊理事）。実施可能なら阪大はサポートする（吉田副会長）。

### 9. 若手の会夏の学校準備状況報告（鷺尾副会長）

- 討論会の前後、筑波山近辺で開催を検討中。早稲田大学鷺尾研が幹事担当。

### 10. 放射線化学賞について（小嶋会長・勝村監事）

- 選考委員会の組織を含め、勝村先生に選考委員長をお願いした（小嶋会長）。
- 選考委員会では、藤塚守先生（阪大産研）を選出した。パルスラジオリシス、振動分光、レーザー照射などを用いた放射線化学反応の研究で、広く物理化学の分野に影響力のある研究業績が認められた（勝村監事）。理

事会にて受賞が承認された。

- 選考の過程で、1つの論文で評価する（規約）のは極めて厳しかった（勝村監事）。
- 奨励賞がなくなり、若手の応募がしつぶくなつたとの意見があつたが、それを補うために、国際会議等で若手を対象としたアワードを出している。
- 学会への貢献は不問となり、積分ではなく微分なので若手もその方がやりやすいだろう（平出副会長）。

### 11. RI誌特集号について（事務局吉田）

- 全原稿査読が終わって、アイソトープ協会に提出した。（事務局吉田）
- 分量が多いので2冊に分ける予定。入手方法は、Webからのダウンロード（無料）と冊子の入手（有料）。（勝村監事（アイソトープ協会））

### 12. アイソトープ協会との協力（事務局吉田）

- RI協会の研究発表会は、今年前年に比べて参加者が減少、放射線関連の学会の規模が年々縮小しているのが原因と思われる。参加者の増員を目的としたシンポジウムの企画を検討中。（勝村監事）
- この状況に放射線化学会はどうに対処すべきかを考える必要がある。企画委員会の仕事かも知れないが、会員が他の学会で積極的に発表して仲間を増やすことが1つの方策と考えられる。推進するために補助を出すことを考えてもよいのではないか。（真嶋理事）
- 過去に、RI研究発表会で陽電子消滅と放射線化学の両方のセッションで、本来は両方の分野の方々に聞いて頂きたい内容を、それぞれの分野の切り口で、(1) (2)として発表したことがある。私は普段陽電子消滅分野で発表しているが放射線化学に密接に関連している内容が多く、放射線化学でも発表したいといつも思っている。（平出副会長）
- 放射線研究連合の活動に積極参加する事も放射線関連学会としての勢力・魅力を向上させるのに効果があるのでないか。以

## 本会記事

前には、応物の放射線分科会との合同セッションの話もあった。

- 同じところに集まつても、セッションを分けては他分野との交流は期待できない。プログラムを工夫する必要がある。(中川理事)

### 13. 学会 HP デザインの刷新 (事務局 吉田 (伴理事欠席のため))

- 学会 HP のデザインが古いで刷新はどうか、特に小さい文字は見難いので、改善してほしいという要望が伴理事よりあつた。しかし、現在の事務局担当者では技術的に難しい。(事務局 吉田)
- 制作してから 16 年経って古いで更新すべき。(岡理事)
- 費用削減の観点から、学生に整備依頼をするのはどうか。その他、安い外注先を事務局でも検討する。

### 14. 学会運営費 (事務局 吉田)

- 毎年 20–30 万円の赤字が続いているおり、あと数年で積立基金に手を付けるところまで行く見込み。対処方法としては、支出を抑えるか収入を増やすかのどちらかだが、会費は上げたばかりなので、なるべく会費は据え置きにしたい。事務業務委託費が支出の約半分を占めているので、中味を精査して

減額の交渉をすることは考えられる。また昨今、若手の会は研究室からサポートを受けている場合もあるので、補助の減額も検討する。(事務局 吉田)

- 討論会の参加費を増額し、学会に入れるという方法がある(1000 円増額で 200 名参加なら 20 万円になる)。(真嶋理事)
- 次回討論会(つくば)では要旨集掲載の広告費などで補助 0 円にする事を検討中。しかし、準備として前渡金は必要なので、予算には計上しておいてほしい。(伊藤理事)
- 学会運営ということなら、学会誌の冊子化(復活)で、広告料を取ることも考えられるが、この方策は間違うと大赤字につながるリスクがある。
- 日本化学会でも同様のことが議論されていて、海外会員を増員、中高生の会員を募る、贊助会員を増員し辞めないように注意する、などの案が出されている。また 3 年に 1 回の国際会議 Pacific Chemistry が大きな黒字を出すので何とか持っているようである。(田口理事)
- 要旨集に企業広告を冊子化するという手もある。結構好評で陽電子ではうまくいっている。(伊藤理事、平出副会長)

以上

# 本会記事

平成29年度役員等名簿（平成29年10月1日現在）

会長	吉田 陽一（阪大産研）	
副会長	鷲尾 方一（早大理工研） 平出 哲也（原子力機構・東海） 前川 康成（量研・高崎） 中川 清子（都立産技研） 高橋 憲司（金沢大工）	国際交流委員会担当 編集委員会担当 事務局担当 放射線サイエンス連合担当 研究推進担当
常任理事	錦見 敏朗（NHV コーポレーション） 河内 宣之（東工大院理工） 丑田 公規（北里大理） 伊藤 賢志（産総研） 浅井 圭介（東北大院工） 青木 康（住友重機械）	辻 正治（九大炭素資源センター） 永石 隆二（原子力機構・東海） 真嶋 哲朗（阪大産研） 堀邊 英夫（大阪市大院工） 田口 光正（量研・高崎）
理事	澤井 友次（放振協） 小泉 均（北大院工） 小嶋 崇夫（大阪府大） 工藤 久明（東大院工） 熊谷 純（名大未来研） 鈴木 信三（京産大理） 関 修平（京大院工） 林 慎一郎（広島国際大） 田中 真人（産総研） 岡 壽崇（東北大高教機構） 古澤 孝弘（阪大産研） 越水 正典（東北大院工） 楊 金峰（阪大産研）	砂川 武義（福井工大） 竹中 康之（北教大） 中村 一隆（東工大セラミック研） 駒口 健治（広大院工） 斎藤 恒一（千葉大工） 青木 昭二（イー・シー・イー） 泉 佳伸（福井大） 山路 稔（群馬大院工） 加藤 隆二（日本大） 菊間 博之（いいえんじ） 廣木 章博（量研・高崎） 伴 弘司（高エネルギー加速器研） 山下 真一（東大院工）
監事	勝村 康介（日本アイソトープ協会）	平岡 賢三（山梨大工）
事務局	前川 康成（量研・高崎）	廣木 章博（量研・高崎）
顧問	佐藤 伸 田川 精一（阪大産研） 田畠 米穂（原子力システム研究懇話会） 市川 恒樹（北大院工） 小嶋 拓治（量研・高崎）	旗野 嘉彦 濱 義昌（早大理工研） 南波 秀樹（放振協） 中川 和道（阪大産研）
名誉会員	近藤 正春	
編集委員会	委員長：平出 哲也（原子力機構・東海） 主任：山下 真一（東大院工） 岡本 一将（北大院工） 甲斐 健師（原子力機構・東海） 加藤 昌弘（産総研） 菅 晃一（阪大産研） 佐伯 誠一（量研・高崎） 端 邦樹（原子力機構・東海）	林 慎一郎（広島国際大） 伊藤 賢志（産総研） 岡 壽崇（東北大高教機構） 田中 真人（産総研） 藤井 健太郎（量研・東海） 椎名 孝行（千代田テクノル） 竹内 夕桐子（極東産業）
企画委員会	委員長：越水 正典（東北大院工） 青木 康（住友重機械） 駒口 健治（広大院工）	須郷 由実（量研・高崎） 藤井 健太郎（量研・東海） 室屋 裕佐（阪大産研）
国際交流委員会	委員長：鷲尾 方一（早大理工研） 室屋 裕佐（阪大産研） 田口 光正（量研・高崎）	泉 佳伸（福井大） 林 銘章（中国科技大） 楊 金峰（阪大産研）

# 本会記事

平成 28 年度会計決算報告（平成 29 年 9 月 1 日現在）

収入の部

(単位：円)

項目	28 年度予算案	28 年度決算	内容等
賛助会員（17 社 32 口）	170,000	320,000	2016 年度契約数 32 口（17 社），※未納 2 口（2 社） × 2 年（40,000 円）
個人正会員（190 名）	950,000	769,000	正会員 入金額 769,000 円（含過年度分）[未納 666,500 円]
学生会員（13 名）	19,500	7,500	学生会員 入金額 7,500 円 [未納 9,000 円]（内預り 金 3,000 円）
終身正会員寄付金	—	—	
雑収入（利息等）	150,000	2,977 34	著作権料 受取利息（国際文献分 11 円，事務局分 23 円）
第 59 回 放射線化学討論会 補助金 剰余金返金	—	157,675	
補助金	—	—	
積立基金からの繰り込み	—	—	
前年度繰越金	1,458,886	1,458,886	
合計	2,748,386	2,716,072	

支出の部

項目	28 年度予算案	28 年度決算	内容等
通信連絡費	20,000	7,088	切手代・郵送料・レターパック代
振込手数料	—	4,320	国際文献社分 0 円，事務局分 4,320 円
事務委託費		421,998	国際文献社 (H28.9-H28.11)
年間業務費	700,000	76,602 74,131	国際文献社 (H28.12-H29.2) 国際文献社 (H29.3-H29.5)
会議費	15,000	11,061	第 59 回 放射線化学討論会理事会 8,901 円，H29.3 理事会 3,160 円
放射線化学討論会援助	400,000	400,000	第 59 回 放射線化学討論会 200,000 円援助 執行済 第 60 回 放射線化学討論会 200,000 円援助 執行済
先端放射線化学 シンポジウム援助	100,000	—	
若手の会夏の学校援助	300,000	220,000	H27 年度分 150,000 円 執行済 H28 年度分 70,000 円 執行済
学会賞	100,000	—	H28 年度内に請求書不着のため次年度繰越
企画委員会経費	75,000	—	
国際交流委員会経費	75,000	50,000	JSRC Young Scientist Award for ACRR2017
編集委員会経費	200,000	200,000	
日本放射線研究連合負担金	50,000	50,000	
ホームページ運営費	115,000	104,838	レンタルサーバー代 3,240 円，HP ドメイン更新料 1,598 円 Web 管理者謝金:H27 年度分，H28 年度分，各 50,000 円
雑費	—	5,730	第 59 回 放射線化学討論会 証書ファイル 10 冊
会誌デジタル化事業	250,000	278,924	
予備費	200,000	—	
小計	2,600,000	1,904,692	
次年度繰越金	148,386	811,380	
合計	2,748,386	2,716,072	

## 本会記事

### 平成28年度入退会希望者一覧

#### 入会

会員種別	会員番号	会員名	所属機関名	紹介者
正会員	731	澤井 友次	一般社団法人放射線利用振興協会 東海事業所	
正会員	729	山沖 瑞実	大阪薬科大学	小嶋拓治, 吉田陽一
学生会員	727	佐藤 謙太	東邦大学理学部物理学科量子エレクトロニクス教室	池田 時浩
学生会員	728	廣瀬 寛士	東邦大学理学部物理学科量子エレクトロニクス教室	池田 時浩
学生会員	730	葛谷 佳広	京都大学原子炉研究所	
学生会員	732	仮屋 深央	大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻	室屋裕佐
学生会員	733	山田 徹平	大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻	室屋裕佐
学生会員	735	楠本 多聞	神戸大学大学院海事科学研究科海事科学専攻	山内知也

#### 逝去

会員種別	会員番号	会員名	所属機関名	
名誉会員	236	団野 翔文		前号記載の会員番号を訂正

## 平成 29 年度 日本放射線化学会贊助会員

---

住友電氣工業（株）  
<http://www.sei.co.jp>

(株) NHV コーポレーション  
<http://www.nhv.jp>

ビームオペレーション（株）  
<http://www.beamope.co.jp>

(一財) 放射線利用振興協会  
<http://www.rada.or.jp>

レーベン館（株）  
<http://www.leben.jp>

(株) 環境浄化研究所  
<http://www.kjk-jp.com>

(株) イー・シー・イー  
<http://www.ece-ebara.com>

(有) イーオーアール  
<http://www.eor.jp>

極東産業（株）  
<http://www.kyokuto-sangyo.co.jp>

ヨシザワ LA（株）  
<http://www.yoshizawa-la.co.jp>

岩崎電氣（株）  
<http://www.iwasaki.co.jp>

量子科学技術研究開発機構  
<http://www.qst.go.jp>

東邦金属（株）  
<http://www.tohokinzoku.co.jp>

(株) イング  
<http://www.ing-co.jp>

(公財) 日本アイソトープ協会  
<http://www.jrias.or.jp>

(株) 千代田テクノル  
<http://www.c-technol.co.jp>

いいえんじ合同会社  
<http://iieng.jp>

---

放射線化学 第 104 号 〈WEB 版〉

平成 29 年 10 月 31 日 発 行

発 行 所 日 本 放 射 線 化 学 会

〒370-1292 群馬県高崎市綿貫町 1233

国 立 研 究 開 発 法 人 量 子 科 学 技 術 研 究 開 発 機 構

高 崎 量 子 応 用 研 究 所 先 端 機能 材 料 研 究 部

e-mail: jsrcc@qst.go.jp

TEL: 027-346-9410, FAX: 027-346-9443

編 集 委 員 長 平 出 哲 也

編 集 委 員 山 下 真 一

岡 本 一 将 甲 斐 健 師

加 藤 昌 弘 菅 晃 一

佐 伯 誠 一 端 邦 樹

林 慎 一 郎 椎 名 孝 行

竹 内 夕 桐 子 伊 藤 賢 志

田 中 真 人 藤 井 健 太 郎

岡 壽 崇

郵便振替口座

長野 00540-9-34599

日本放射線化学会

発 行 人 吉 田 陽 一